

軍事要塞として戦争準備の進む琉球弧の島々 —宮古島よりの報告—

止めよう「自衛隊配備」宮古郡民の会・事務局長
宮古平和運動連絡協議会・共同代表

清水早子

那覇から300キロほど南に位置する宮古島は、サトウキビの葉が風に揺れる山も川もない平坦な隆起サンゴ礁の島である。人口5万4千人の、観光と農漁業と畜産の島だ。

過去の戦時中には、人口5万人の島に3万人の日本兵が駐屯し、判明しているだけで、17か所の「慰安所」があり、朝鮮、台湾からの「慰安婦」とされた少女や女性たちが置かれていた。

沖縄の「本土復帰」の際に、占領していた米軍から自衛隊に引き継がれた航空自衛隊のレーダー基地が島の中央にあり、その麓には全国からの募金で建立された日本軍「慰安婦」の祈念碑がある。

この島の離島である伊良部島との間に、約4キロの大橋が2015年1月に開通した。伊良部島と今は陸続きになっている下地島には、1973年パイロットの訓練飛行場として開港した下地島空港があり、ローカルな空港としては稀な3キロの滑走路を持つために、この40年来、ずっと軍事利用の危機に見舞われてきた。普天間基地の代替地としてたびたび浮上するこの下地島空港の軍事利用反対運動を、私たちは続けている。

中期防衛計画で「島嶼防衛」が語られ、10年位前から「南西諸島への新陸自配備」が取り沙汰されるようになった。

伊良部大橋が開通し、宮古島と伊良部島・下地島が直結するそのときが危ないと私たちは考えていたが、しかし、伊良部大橋の開通後の2015年5月11日に防衛副大臣が来島、宮古島市下地敏彦市長に800~900名のミサイル部隊を配備する計画の

説明をした。ふたを開ければ、配備候補地は島の中央部の2か所。その

うち1か所は飲料水も地下水に頼っている宮古島の水源流域の真上である。そこに覆土式の弾薬庫、覆道式射撃訓練場、隊舎、地下司令部を建設し、地对艦・地对空ミサイルを配備する計画である。

大型船舶（実は軍艦？）受け入れのための港湾の整備も進んでいる。空自レーダー基地には国際的な盗聴施設・地上波傍受施設も近年建設され、その近くには、高度なGPS機能を持つ「準天頂衛星」の管理局（全国7か所のうちの1か所）も完成した。陸海空の軍事化だけではなく、米国の無人攻撃機などに寄与する宇宙空間の軍事利用でもある。文字通り、全島



「軍事要塞化」が進められようとしている。

地下水審議会の学術部会での専門家の「配備反対」の結論を、基地推進の市長が改ざんしようとしたことの暴露や、防衛省の住民説明会での住民からの激しい追及や、反対する市民運動の活発化などにより、現在、配備計画は、水源地上の候補地は計画から取り下げられ、島の中央部、現存する通信基地近くのゴルフ場1か所が選定されている。隣接する地域の自治会では反対決議を上げており、反対の民意は高まっている。

1月22日投開票で実施された市長選挙では、国、自民党本部、日本維新の会、防衛省、日本会議、幸福実現党、ネット右翼等の大量の人と金の投入をもって妨害され、376票（現市長9588：配備反対候補9212）の僅差で、残念ながら敗北に終わった。

安慶田翁健副知事の「口利き」疑惑の公表が宮古島市長選最中であったことは、宮古島市長選への妨害であり、先行してかけられた「オール沖縄」つぶしのリハーサルとも言えるものだった。

島の軍事化を止める闘いはこれからが正念場である。沖縄防衛局は配備候補地のボーリング調査を早くも開始している。高江のヘリパッド建設強行と、辺野古での工事再開の強行と相まっての同時進行であり、安倍政権の戦争遂行国家の意思の表れである。

沖縄の南の離島がふたたび戦場になろうとしていること、その準備が進行していることを、ぜひ、全国の皆さんに知っていただきたい。



以下参照 琉球弧の軍事化に反対するネットワーク

<http://ryukyuheiwa.blog.fc2.com/>

Change.org (ネット署名)

止めよう！宮古島への自衛隊配備

<http://chn.ge/1MSPKRb>



日米防衛戦略の変遷と宮古島の軍事要塞化

(抜粋)

★琉球弧全域が最前線基地化

2010年9・21～24 米海軍掃海艦「ディフェンダー」が宮古島・平良港へ強行入港「友好親善」ではなく、港湾調査が目的。

2011年11・4 宮古平和運動連絡協議会が宮古島市長へ「陸自配備させない等」要請

2012年3・27 日米で「在日米軍再編見直し・中間報告」が同時発表

4・3 PAC3 宮古島に配備 (PAC3 配備＝中国・朝鮮半島を想定した戦争訓練)

8・27 防衛省は尖閣諸島を含む南西諸島の防衛力を強化するため、離島の上陸作戦に使う水陸両用強襲車を陸上自衛隊に導入する方針を固めた。2013年度予算案の概算要求に4両分、約25億円を盛り込む。導入するのは、米海兵隊が採用している「AAV7」。

9・15 下地島空港に自衛隊・無人機 訓練場構想＝北沢元防衛相が提言

12・6 海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」が平良港に、再び PAC3 配備

2013年8・21 自衛隊、オスプレイ導入へと報道

11・6 地对艦ミサイル宮古へ上陸に抗議して座り込み 制服警官 30 名が排除

2014年4・19 自衛隊機で小野寺防衛大臣の来島

6・11 「自衛隊配備に反対する市民集会」

6・12 武田防衛副大臣来庁、市役所前で抗議行動

7・1 第2次安倍内閣、集団的自衛権を限定的に行使することができるという憲法解釈を

変更する閣議決定

9・6 「防災訓練」という名の戦争訓練に抗議行動
2015年5・11 左藤防衛副大臣来島抗議行動 (陸自ミサイル配備計画を市長に告知)

7・16 衆議院本会議で安保法制強行可決

9・19 安保法参議院で強行可決

2016年2・7 宮古の民間地にパトリオットミサイル PAC3 配備

3・28 与那国島へ自衛隊沿岸警備隊配備

3・29 宮古石垣東京行動団 安保法施行に抗議する3万7千人の国会前集会に訴え

〇〇〇 準天頂衛星管理局が宮古島にて運用開始 (宇宙空間の軍事利用) 全国で7カ所

★日米軍共同の具体的な戦争訓練へ

上記、2014年7月の「集団的自衛権行使容認」という憲法解釈の変更を閣議決定だけで行い、2015年3月、安保法の施行により、日本は、戦争に参戦することを可能にし、その準備を琉球弧の島々で進めている。その新安保体制の下、今年2016年、春から米陸軍のキャンプ座間で極秘の協議をして、11月末から2週間共同指揮所演習を行った。

その作戦「YS-71」は、これまでになくリアルな具体的なシナリオに基づいて行われたという米太平洋軍関係者の話が、ある月刊誌にある。

11月30日の在日米海兵隊のツイッターで、うるま市のキャンプコートニーでの「日米軍共同方面隊

沖縄県うるま市にある米海兵隊キャンプ・コートニーで11月30日、海兵隊と自衛隊による日米共同方面隊指揮所演習の戦闘予行が行われました。



指揮所演習の戦闘予行の画像が流れた。それは米兵と自衛隊員が混在して取り囲む中、米軍指揮官が宮古島の地図の上に立ち指揮棒

で下地島を指しているものだ。3か所の青い印は新設基地で、16か所の赤い印は実戦の際に配備されるミサイルと思われる。彼らは、宮古島を戦場に見立てて演習をしているという現実がある。このような状況の中に、奄美・宮古・石垣へのミサイル配備計画があることを、私たちは認識しなければならない。